

東奥日報

2024年(令和6年)5月12日(日曜日) (12)

電気学会東北支部大会

八戸工業大学大学院2年の立崎智也さん(26)は十和田市出身、工学研究科博士前期課程電子電気・情報工学専攻Ⅱが、電気関係学会東北支部連合大会で優秀論文発表賞に輝いた。大会は昨年9月に岩手県で開催され、東北6県の学生らが研究成果を披露。発表計190件から、若手研究者対象の8人に選出された。立崎さんは「質疑応答で第三者の視点から提案もあり、今後の糧にできた。賞を頂き、さらに身が引き締められた」と語った。(下館悠々)

立崎さんは、温室効果ガス排出を実質ゼロにするカーボンニュートラル社会の実現を目指し、石油系プラ

脱炭素化へ新素材開発研究

「今後の糧にできた」

スチックに代わる再生可能な新素材開発に関する研究をしている。レジ袋などでも普及が進むバイオマスに着目し、トウモロコシのでんぷんから生成され、電気を通さない絶縁体「ポリ乳酸(PLA)」に植物由来の柔らかなバイオポリエチレンを配合。比率を変え、硬く、もろいPLAの弱点改善を目指した。

大会では、配合比率を変えて接着剤となる添加剤2種類を組み合わせた際の熱分析の状態を報告。柔軟性と電気絶縁性の良好な変化を示した。大学4年から研究を始め、大会での発表2度目での受賞に立崎さんは「研究成果には自信があった。カーボンニュートラル、持続可能な開発目標(SDGs)に直結する素材開発、解決策の提案につなげたい」と意欲を示した。

9日には八戸市の同大で坂本禎智学長に結果を報告。坂本学長は「説明を聞いて研究が自分のものになっていると感じる。若手研究者の登壇、歴史ある学会の代表的な賞の受賞で素晴らしい」とたたえた。指導した信山克義教授は「獨創性やオリジナリティーといった内容、プレゼンテーション、質疑応答の答えなど、身に付いた研究として発表できていた」と評価。その上で「大会を通じて多様なアドバイスを受け、素晴らしい修士論文につなげられるだろう」と今後の研究に期待した。

若手研究者の中から優秀論文発表賞に選ばれた立崎さん



立崎さん(八戸工大)優秀発表賞

八戸

※「この画像は該当ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです」